

草花

4 月中旬から 10 月後半にかけて、三瓶山に生育する様々な植物が花を咲かせる。池や、草原、ブナ林、山頂にまで、それぞれの場所に適応した花が咲く。

早春の、ちょうどブナ林に葉が生え始めるころに、林床のあちこちに白っぽい紫や白い花びらのスミレと、星形のミヤマカタバミが咲く。間もなくすると、クロモジの黄色い花とマムシグサの縞模様の水差しのような形の花が咲く。香りが良いことからポプリに使われることもあるクルマバソウが、白い花の房をつける。

5 月と 6 月には、薄紫のカキツバタが三瓶山周辺の池の中に姿を現す。スイカズラ的一种であるタニウツギのかわいらしいピンクのトランペット型と、クリーム色で星型のヤマボウシの花が夏の到来を告げる。周辺の草原では、レンゲツツジの群生の赤い花で染まる。

真夏までに、新しい花がたくさん森に現れる。コアジサイとガマズミはどちらも白いレースのような花が群生する。ヤマボウシの花も白いが、もっと大きい。ミズキ属のウリノキの花は特に気品があり、白い花びらが曲線を描き、長い花弁を垂らしてまるで小さな風鈴のように見える。

秋には森林は赤と黄色に鮮やかに葉の色を変えるが、気温が下がっても花は咲き続ける。たとえばアキチョウジは、茎が長く、ツルリンドウの花の色に似た青っぽい紫の花を咲かせる。

草原では秋に多くの草花が最盛期を迎える。日本の秋の七草うち八ギ、ススキ、クズ、ナデシコ、オミナエシ、キキョウ（萩の花、尾花、葛花、瞿麦の花、女郎花、桔梗）の 6 種類が三瓶山の草原に生育している。